

SELECTIVE ANTIMICROBIAL COMPOSITION

特許公報番号 JP2001226213 (A)

公報発行日 2001-08-21

発明者 ASAGA YOSHIO

出願人 SHISEIDO CO LTD

分類:

一国際:

A61K8/06; A01N65/00; A01N65/22; A01N65/38; A01N65/42; A61K8/00; A61K8/07;
A61K8/08; A61K8/09; A61K36/18; A61K36/47; A61K36/48; A61K36/53; A61K36/71;
A61K36/75; A61K36/81; A61K36/86; A61P17/00; A61P31/04; A61P37/00; A61Q1/00;
A61Q1/12; A61Q19/00; A61K36/06; A01N65/00; A01N65/22; A01N65/38; A01N65/42;
A61K8/00; A61K36/18; A61K36/18; A61K36/88; A61P17/00; A61P31/00; A61P37/00;
A61Q1/00; A61Q1/12; A61Q19/00; (IPC-1-7): A01N65/00; A61K7/00; A61K7/48;
A61K35/76; A61P17/00; A61P31/04; A61P37/00

一政府:

出願番号 JP20000363256 20001129

優先権主張番号: JP20000363256 20001129, JP19990346312 19991206

要約 JP 2001226213 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a selective antimicrobial composition capable of distinguishing *Staphylococcus epidermidis* present on the healthy skin from *Staphylococcus aureus* present on the skin having dermatosis and exhibiting sufficient effects on treatment and prophylaxis of the dermatosis such as atopic dermatitis due to antimicrobial effects only on the noxious *Staphylococcus aureus* without affecting the growth of the innocuous *Staphylococcus epidermidis*. SOLUTION: This selective antimicrobial composition is characterized in that one or more kinds of essences extracted from plants selected from Moutan Cortex, Glycyrrhiza Radix, oolong tea, *Rosmarinus officinalis* L., *Sophora angustifolia* Sieb. at Zuco., *Coptidis Rhizoma*, *Phellodendri Cortex*, thyme, Aloe, *Triadica sebifera* Smell, Mungel, *Cordyceps sinensis* Sacc., *Rubiae Radix*, *Menyanthes trifoliata* L., *Clethra barbinervis* Sieb. at Zuco., *Trillium smilli* Maxim. and *Capsicum annuum* L. are formulated.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-226213

(P2001-226213A)

(43)公開日 平成13年8月21日(2001.8.21)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テグメント ⁸ (参考)
A 0 1 N 65/00		A 0 1 N 65/00	A 4 C 0 8 3
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00	K 4 C 0 8 8
7/48		7/48	4 H 0 1 1
35/78		35/78	F
			J
審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 10 頁) 最終頁に続く			
(21)出願番号	特願2000-363256(P2000-363256)	(71)出願人	000001959 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号
(22)出願日	平成12年11月29日(2000.11.29)	(72)発明者	浅賀 良雄 神奈川県横浜市都筑区早瀬2丁目2番1号 株式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)内
(31)優先権主張番号	特願平11-346312	(74)代理人	100092901 弁理士 岩橋 祐司
(32)優先日	平成11年12月6日(1999.12.6)		
(33)優先権主張国	日本(J P)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 選択的抗菌組成物

(57)【要約】

【課題】 本発明は、健康な肌に存在する表皮ブドウ球菌と皮膚疾患を有する皮膚に存在する有害な黄色ブドウ球菌を区別し、無害の表皮ブドウ球菌の生育には影響を与えず、有害な黄色ブドウ球菌のみに抗菌効果を有することによりアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の治療および予防に十分な効果を発揮する選択的抗菌組成物を提供することを目的とする。

【解決手段】 ボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゴーシ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リョウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスの1種又は2種以上を配合することを特徴とする選択的抗菌組成物を提供する。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲシ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リョウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスの 1 種又は 2 種以上を配合することを特徴とする選択的抗菌組成物。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の選択的抗菌性皮膚外用剤において、前記植物抽出エキスの 1 種又は 2 種以上を 0.001～10 重量%配合することを特徴とする選択的抗菌組成物。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 に記載の選択的抗菌組成物において、選択的抗菌組成物が皮膚外用剤であることを特徴とする選択的抗菌組成物。

【請求項 4】 請求項 1～3 のいずれかに記載の選択的抗菌組成物において、選択的抗菌組成物がアトピー性皮膚炎皮膚外用剤であることを特徴とする選択的抗菌組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は抗菌組成物、とくに皮膚外用剤に配合される抗菌剤の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】 一般的にアトピー性皮膚炎等の皮膚疾患をもつ患者の皮膚には健康人の皮膚上に多く存在する表皮ブドウ球菌 *Staphylococcus epidermidis* (Staphylococcus epidermidis) に加えて有害な黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* (Staphylococcus aureus) が多数存在していることがあり、症状を悪化させていることが知られている。このため従来、皮膚外用剤には有害である黄色ブドウ球菌を除去するため抗菌剤を配合することが一般的であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、通常健康人の皮膚上には無害な表皮ブドウ球菌 *Staphylococcus epidermidis* (Staphylococcus epidermidis) が常在しており、病原性微生物の皮膚への侵入を防止するという有益な役目を持っている。そして抗菌剤を塗布するとこの有益な表皮ブドウ球菌も殺菌してしまうことになり、皮膚上の細菌分布が不健全な状態になる。このように肌の有益な常在菌のバランスがくずれることにより皮膚に悪影響を与え治療に十分な効果を得ることができないことがあった。また、通常の殺菌を繰り返すことによって、この有益な表皮ブドウ球菌が減少し、次第にその他の有害な菌が皮膚に定着侵入しやすくなるという傾向があった。

【0004】 本発明は上記課題に鑑み成されたものであり、その目的は、健康な肌に常在する表皮ブドウ球菌と皮膚疾患をもつ皮膚上に存在する有害な黄色ブドウ球菌を区別し、常在する有益な表皮ブドウ球菌の生育には影響を与えず、有害な黄色ブドウ球菌のみに抗菌作用を有

することによってアトピーなどの皮膚疾患の治療および予防に十分な効果を発揮する選択的抗菌組成物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明で挙げられる有害菌の黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* (Staphylococcus aureus) と有益菌の表皮ブドウ球菌 *Staphylococcus epidermidis* (Staphylococcus epidermidis) は、分類学上かなり類似した菌であり、一般的にこの両者を区別して殺菌または発育抑制することは極めて難しい。しかしながら、本発明者は、鋭意検討の結果、200 種以上の植物抽出エキスをボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲシ (Mungs i)、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リョウブ、エンレイソウ、トウガラシなどの植物抽出エキスを、有害菌の黄色ブドウ球菌の生育だけを抑制して、有益な表皮ブドウ球菌の生育には影響を与えないことを見出し、本発明を完成させるに至った。

【0006】 すなわち、本発明にかかる選択的抗菌性皮膚外用剤は、ボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲシ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リョウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスを 1 種又は 2 種以上を配合することを特徴とする。また、本発明の選択的抗菌性皮膚外用剤においては、前記植物抽出エキスを 1 種又は 2 種以上を 0.001～10 重量%配合することが好適である。また、本発明の選択的抗菌組成物は、皮膚外用剤であることを特徴とする。また、本発明の選択的抗菌組成物は、アトピー性皮膚炎皮膚外用剤であることを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】 以下に、本発明の実施の形態について詳述する。本発明に用いられるボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲシ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リョウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスを、一般的には他の植物抽出エキスと同様に各種細菌類の増殖抑制剤として知られていて、ニキビ対応製品や消臭対応製品に用いられているが、本発明で用いるような有害菌の黄色ブドウ球菌の生育だけを抑制して、有益な表皮ブドウ球菌の生育には影響を与えないという、選択的な抗菌性物質としての配合は今までに皆無である。本発明は過去に例の無い選択的な抗菌成分に関するものである。

【0008】 本発明は、上記植物抽出エキスを 1 種又は 2 種以上を組み合わせたことにより有益な表皮ブドウ球菌の生育には比較的影響を与えず、有害な黄色ブドウ球菌のみに強い抗菌効果を発揮することを見出し為された

ものである。以後、この特定有害細菌に対して選択的に発揮する抗菌効果を「選択的抗菌効果」と記載する。本発明の選択的抗菌組成物における植物抽出エキスの配合量は、組成物全重量の0.001～10重量%が好ましく、0.01～5重量%が更に好ましい。この配合量が0.001重量%未満では抗菌または治療の目的を十分に発揮できず、また、10重量%を越えると、抗菌効果に選択性がなくなるので好ましくない。

【0009】本発明の選択的抗菌組成物は、軟膏剤、クリーム、乳液、化粧水、ジェル、ボディオイル、ファンデーション、スプレーなどの剤型に調製することができ、乳化組成物にする場合O/W型、W/O型共に可能である。また、これらの剤型に調製する際に使用することができる構成成分の種類やその配合量は、慣用手段に従って、当業者が適宜定めうる範囲で調整することができる。なお、これらの種類や配合量は以下に示す実施例に限定されるものではなく、目的の剤型を調節しうるということが知られている任意の成分およびその任意の配合割合を用いることができる。また、これらの組成物の調製に当たっては、公知の抗炎症剤、ビタミンA、ビタミンB₆、ビタミンD、パントテン酸、ビオチンなどのビタミン類、副腎皮質ホルモンなどのホルモン類、抗ヒスタミン剤などを併せて配合してもよい。

【0010】また、上記本発明の選択的抗菌組成物は、皮膚外用剤として好適に用いられ、本発明品は皮膚の状態を自然な状態に保つことができるので皮膚が敏感な状態にあるアトピー性皮膚炎の治療及び予防にとくに有効である。その他の使用方法として、拭き取り式の濡れナプキンや点鼻剤や点耳剤にも利用が可能である。*

* 【0011】

【実施例】以下に本発明をさらに具体的にするため実施例を示す。なお、本発明はこれら実施例によって限定されるものではない。まず、実施例に先だって各種植物抽出エキスの選択的抗菌効果についての試験を示す。

【0012】＜方法＞供試菌を予め滅菌生理食塩液に約10万cfu/mlになるように分散させた溶液を調製し、この液をSCD（ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト）寒天平板の表面に0.05mlを一樣に接種し自然乾燥させる。滅菌した直径8mmの円形ろ紙に植物抽出エキスの適宜希釈した溶液を0.1ml含浸させて、菌を接種したSCD寒天平板の上に置いて、常法通り培養する。培養後円形ろ紙の周囲に発生した、菌未生育帯（発育抑制帯、透明ゾーン）の大きさを測定することで菌に対する増殖抑制効果を評価した。

【0013】＜供試菌＞

黄色ブドウ球菌（有害菌）

Staphylococcus aureus FIA209P（標準株）

20 Staphylococcus aureus 分離株（Staphylococcus aureus 分離株：アトピー性皮膚炎患者から分離した菌）2株（AD1株、AD2株）

表皮ブドウ球菌（有益菌）

Staphylococcus epidermidis IP03762（Staphylococcus epidermidis IP03762：標準株）

植物抽出エキスの選択的抑制効果の結果を下表1に示す。

【0014】

【表1】

植物抽出エキス名	生育抑制ゾーン（mm）			
	S.epi	S.aureus209P	S.aureusAD1	AD2
ボタンビ	<8	12	11	10.5
カンゾウ	<8	12	13	12
ウーロン茶	<8	18	16	17
ローズマリー	<8	13	11	13
クララ	<8	17	16	16
オオレン	<8	12	12	12
オオバク	<8	13	12	13
タイム	<8	12	11	11
アロエ	<8	24	19	20
ナンキンハゼ	<8	15	15	14
マンダリン	<8	16	14	14
冬虫夏草	<8	11	11	9.5
センソウ	<8	10	10	10
ミツガシワ	<8	16	14	13
リョウブ	<8	13	11	13
エンレイソウ	<8	11	10	11
トウガラシ	<8	12	11	11

【0015】表1に示されるように各種植物抽出エキスのブドウ球菌発育抑制効果を菌株間での発育阻止ゾーンの差でみたところ、有益菌*スチロコッカス・エビデルミ* IF03 762に対しては全く阻止作用が認められないが有害菌*スチロコッカス・オレウス* FDA209P並びに患者由来の*スチロコッカス*分離株に対して強い抑制効果を示したエキ스가確認された。この様に近縁種の*スチロコッカス*属の菌でありながら、有害菌の*スチロコッカス・オレウス*に特異的に強く生育抑制作用が生じていることは、今までに全く報告の無い知見であり興味深い事実である。更に、この傾向は標準株のみならずアトピー性皮膚炎患者から分離した菌株においても同様*

*の傾向があることは、実用面でもその抑制効果が期待出来ることを、示唆しているといえる。

【0016】次に、ヒトの皮膚に似せた下記表2の模擬皮脂クリーム処方を用い、皮膚上での選択的抗菌作用をチャレンジテスト法（菌接種法）により評価した。接種菌は同一患者から分離した、有益菌*スチロコッカス・エビデルミ* 分離株および有害菌*スチロコッカス・オレウス* 分離株を用いて行った。

【0017】

【表2】

模擬皮脂クリーム(*)		比較例1	試験例1
A. 水相			
	イオン交換水	62.4	61.4
防腐助剤	エタノール	1.3	1.3
保湿剤	グリセリン	3.0	3.0
薬剤	キシリトール	4.0	4.0
	<u>オオバクエキス</u>	—	0.3
	<u>クララエキス</u>	—	0.5
	<u>ボタンビエキス</u>	—	0.2
B. 油相			
皮脂	トリステアリン酸グリセリル	10.7	10.7
	ステアリン酸	5.3	5.3
	スクワレン	3.2	3.2
	ステアリン酸ステアリル	6.7	6.7
	コレステロール	0.8	0.8
界面活性剤	エマレックスGWIS(*1)	1.3	1.3
	サンソフト8004(*2)	1.3	1.3

*：模擬皮脂クリームはPBS(—) [Ca²⁺、Mg²⁺ を含まないリン酸緩衝液] でpH 5.7に調整されている（以下の模擬皮脂クリームも同じ）。

*1：商品名エマレックスGWIS（イソステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル；日本エマルジョン社製、以下同じ）

*2：商品名サンソフト8004（親油性モノステアリン酸グリセリン；太陽化学工業社製、以下同じ）

【0018】<製法>水相部Aと油相部Bに薬剤を加え ※クリームでの接種菌の経時変化を表3に示す。

たものをそれぞれ70℃に加熱し完全溶解する。A相を
B相に加えて、乳化機で乳化する。乳化物を熱交換機を
用いて冷却してクリームを得た。比較例1の模擬皮脂脂*

40 【0019】

【表3】

	表皮ブドウ球菌（有益菌）	黄色ブドウ球菌（有害菌）
初発接種菌数	130000cfu/g	120000cfu/g
2日後の生存数	110000	100000
4日後の生存数	76000	71000
7日後の生存数	49000	39000

【0020】表3の結果より、本発明の抗菌成分である植物抽出エキスを添加していない比較例1の模擬皮脂クリームでは、選択的抗菌効果はまったく認められない。次に試験例1の模擬皮脂クリームでの接種菌の経時変化を

*を表4に示す。

【0021】

【表4】

	表皮ブドウ球菌 (有益菌)	黄色ブドウ球菌 (有害菌)
初発接種菌数	130000 cfu/g	120000 cfu/g
2日後の生存数	110000	3400
4日後の生存数	77000	820
7日後の生存数	51000	<10

【0022】表4の結果より、試験例1の模擬皮脂クリームにおいては、アトピー性皮膚炎患者から分離した常在の有益菌 *Staphylococcus epidermidis* 分離株および有害菌 *Staphylococcus aureus* 分離株において、オオバクエキス、クララエキス、ボタンビエキスを添加することにより、選択的に有害菌 *Staphylococcus aureus* 分離株のみに抗菌作用を及ぼしていることがわかる。以上の結果をまとめると、本発明に用いられるボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲージ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リュウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスを1種又は2種以上を組み合わせて配合した皮膚外用剤を使用することにより、皮膚上で有益な表皮ブドウ球菌の生育には比較的影響を与えず、有害な黄色ブドウ球菌のみに強い抗菌効果を発揮することが期待出来る選択的抗菌性を有する皮膚外用剤を提供できることを導き出したといえる。

【0023】したがって、本発明に用いられるボタンビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオ

※ オレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンゲージ、冬虫夏草、センソウ、ミツガシワ、リュウブ、エンレイソウ、トウガラシなどを配合することによって、皮膚上で優れた選択的抗菌効果をもたらすことが期待できる。

【0024】同様の評価法で、他の植物抽出エキスの配合、組み合わせでも同様の効果が確認出来たので結果を表5及び表6に示す。

<判定基準>

◎ … 比較例2と比較して顕著に選択的抗菌効果が確認できた。

○ … 比較例2と比較して選択的抗菌効果が確認された。

△ … 比較例2と比較して選択的抗菌効果がわずかに確認された。

× … 比較例2と比較して選択的抗菌効果が確認できなかった。

【0025】

【表5】

模擬皮脂 クリーム	比較 例2	試験 例2	試験 例3	試験 例4	試験 例5	試験 例6	試験 例7
A. 水相							
イオン交換水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
エタノール	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
キシリトール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
材料エキス	—	0.8	0.3	—	0.1	—	0.3
ボタンビエキス	—	0.1	—	5.0	—	—	0.03
クララエキス	—	—	1.5	—	2.0	0.2	—
ローズマリーエキス	—	0.01	—	—	0.7	—	0.2
アロエエキス	—	—	0.05	0.5	—	—	0.1
タイムエキス	—	—	—	—	—	1.6	0.01
B. 油相							
トリスチラン酸ゲリシル	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7
ステアリン酸	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
スクワレン	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
ステアリン酸アミル	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7

9							10
コレステロール	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
エマレックスGWS	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
サンソフト8004	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
植物抽出エキスの配合量	0	0.91	1.85	5.5	2.8	1.8	0.64
評価	—	○	◎	◎	◎	◎	○

【0026】

* * 【表6】

模擬皮脂 クリーム	比較 例2	試験 例8	試験 例9	試験 例10	試験 例11
A. 水相					
イオン交換水	残量	残量	残量	残量	残量
エタノール	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
キシリトール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
グリセリン	—	0.008	—	0.001	0.003
グリセリン	—	0.001	0.05	—	0.0003
グリセリン	—	—	—	0.02	—
ローズマリーエキス	—	0.0001	—	0.007	0.002
アロエエキス	—	—	0.005	—	0.001
タイムエキス	—	—	—	—	0.0001
B. 油相					
トリステアリン酸グリセリド	10.7	10.7	10.7	10.7	10.7
ステアリン酸	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
スクワレン	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
ステアリン酸ステアリル	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7
コレステロール	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
エマレックスGWS	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
サンソフト8004	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
植物抽出エキスの配合量	0	0.0091	0.055	0.028	0.0064
評価	—	△	○	○	△

【0027】上記表5及び表6の結果より、本発明の選択的抗菌組成物における植物抽出エキスの配合量は約0.01～5重量%がとくに好適であることがわかる。なお、0.001重量%より少ないと十分な抗菌効果が得られないことがあるので好ましくなく、10重量%を※

※越えた配合は抗菌効果に選択性がなくなるので好ましくない。

【0028】つぎに、本発明の選択的抗菌組成物の実施例を挙げる。なお、本発明はこれら実施例によって何等制限を受けるものではない。

実施例1 クリーム

成分	配合量(重量%)
A. セタノール	0.5
ワセリン	2.0
スクワラン	7.0
自己乳化型モノステアリン酸グリセリン	2.5
POE(20)ソルビタンモノステアリン酸エステル	1.5
パントテニルエチルエーテル	0.5
ホホバ油	5.0
B. プロピレングリコール	5.0
グリセリン	5.0

11

12

ビーガム (モンモリロナイト)	5.0
キシリトール	5.0
クララエキス	0.2
オオバクエキス	1.0
タイムエキス	0.5
精製水	

残余を加えて100とする

※物を熱交換機を用いて冷却してクリームを得た。

【0029】

—製法—

A (油相) と B (水相) をそれぞれ70℃に加熱し、完全溶解する。AをBに加えて、乳化機で乳化する。乳化*

実施例2 クリーム

成分	配合量 (重量%)
A. ステアリン酸	10.0
ステアリルアルコール	4.0
ステアリン酸ブチル	8.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.0
ビタミンEアセテート	0.5
ビタミンAパルミテート	0.1
マカデミアナッツ油	1.0
香料	0.4
防腐剤	適量
B. グリセリン	4.0
1, 2ペンタンジオール	3.0
水酸化カリウム	0.4
アスコルビン酸リン酸マグネシウム	0.1
キシリトール	1.0
ボタンビエキス	1.5
アロエエキス	0.3
冬虫夏草エキス	0.1
エデト酸三ナトリウム	0.05
精製水	

残余を加えて100とする

※を熱交換機を用いて冷却してクリームを得た。

【0030】

—製法—

A (油相) と B (水相) をそれぞれ70℃に加熱し完全溶解する。AをBに加えて、乳化機で乳化する。乳化物※

実施例3 クリーム

成分	配合量 (重量%)
A. セタノール	4.0
ワセリン	7.0
イソプロピルミリステート	8.0
スクワラン	15.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.2
POE (20) ソルビタンモノステアレート	2.8
ビタミンEニコチネート	2.0
香料	0.15
酸化防止剤	適量
防腐剤	適量
B. グリセリン	10.0
ジプロピレングリコール	4.0
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	1.0
エンレイソウエキス	0.03
カンゾウエキス	0.47

オオレンエキス	1.0
エデト酸二ナトリウム	0.02
精製水	残余を加えて100とする

実施例1に準じてクリームを得た。

* * 【0031】

実施例4 乳液

成分	配合量 (重量%)
A. スクワラン	5.0
オレイルオレート	3.0
ワセリン	2.0
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	0.8
P O E (20)オレイルエーテル	1.2
月見草油	0.5
香料	0.1
防腐剤	適量
B. 1, 3 ブチレングリコール	4.5
キシリトール	1.5
エタノール	3.0
カルボキシビニルポリマー	0.2
水酸化カリウム	0.1
グリセリン	1.0
カンゾウエキス	0.1
アロエエキス	0.3
冬虫夏草エキス	0.2
オオレンエキス	0.1
ヘキサメタリン酸ナトリウム	0.05
精製水	残余を加えて100とする

実施例1に準じて乳液を得た。

※ ※ 【0032】

実施例5 ファンデーション

成分	配合量 (重量%)
A. セタノール	3.5
脱臭ラノリン	4.0
ホホバ油	5.0
ワセリン	2.0
スクワラン	6.0
ステアリン酸モノグリセリンエステル	2.5
P O E (60)硬化ヒマシ油	1.5
P O E (20)セチルエーテル	1.0
ピリドキシントリパルミテート	0.1
ファルネソール	1.0
防腐剤	適量
香料	0.05
B. プロピレングリコール	8.0
調合粉末	12.0
グリセリン	5.0
ローズマリーエキス	1.0
ナンキンハゼエキス	0.2
センソウエキス	0.1
マンダーシエキス	0.02
エデト酸三ナトリウム	0.05
精製水	残余を加えて100とする

—製法—

実施例1に準じてファンデーションを得た。

* 【0033】

*

実施例6 化粧水

成分	配合量(重量%)
A. エタノール	5.0
POEオレイルアルコールエーテル	2.0
2-エチルヘキシル-P-ジメチルアミノベンゾエート	0.18
フェニルエチルアルコール	0.005
防腐剤	適量
香料	0.05
B. 1, 3 ブチレングリコール	7.5
ピロリドンカルボン酸ナトリウム	0.5
ニコチン酸アミド	0.3
グリセリン	5.0
ヒドロキシプロピルβシクロデキストリン	1.0
クエン酸	0.05
クエン酸ナトリウム	0.1
キシリトール	1.0
ウーロン茶エキス	0.05
クララエキス	0.1
ミツガシワエキス	0.02
トウガラシエキス	0.003
オオバクエキス	0.9
精製水	

残余を加えて100とする

—製法—

Aのアルコール相をBの水相に添加し、可溶化して化粧水を得た。

【0034】本発明にかかるこれら実施例の選択的抗菌組成物は、特に黄色ブドウ球菌が関与するアトピー性皮膚炎の治療および予防に有効性を示した。

【0035】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の選択的抗菌組成物は、ボタニビ、カンゾウ、ウーロン茶、ローズマリー、クララ、オオレン、オオバク、タイム、アロエ、ナンキンハゼ、マンダージン、冬虫夏草、センソウ、※

※ミツガシワ、リュウブ、エンレイソウ、トウガラシから選ばれる植物抽出エキスの1種又は2種以上を配合することにより、健康な肌に常在する表皮ブドウ球菌と皮膚疾患を有する肌に存在する有害な黄色ブドウ球菌を区別し、有益な表皮ブドウ球菌の生育には影響を与えず、有害な黄色ブドウ球菌にのみ抗菌効果を有する。また、本発明の選択的抗菌組成物は、上記選択的な抗菌効果をもつので、皮膚外用剤とした場合、アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患の治療および予防に十分な効果を発揮することができる。

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷
A61K 35/78

識別記号

FI
A61K 35/78

7-コード(参考)

C
Q
K
V
L
R

A61P 17/00
31/04
37/08

A61P 17/00
31/04
37/08

F ターム(参考) 4C083 AA031 AA071 AA111 AA112
AA122 AB032 AB282 AB442
AC012 AC022 AC072 AC102
AC122 AC132 AC152 AC182
AC242 AC302 AC352 AC422
AC442 AC532 AC552 AC612
AC642 AC852 AD042 AD092
AD252 AD492 AD532 AD632
AD642 AD662 CC02 CC04
CC05 CC12 EE12 EE13 FF04
4C088 AB32 AB38 AB45 AB46 AB50
AB58 AB59 AB60 AB62 AB67
AB85 AB86 AD09 AD19 BA08
CA03 MA63 NA05 ZB35
4H011 AA02 BA01 BA06 BB22 BC01
BC03 BC06 BC08 BC09 BC18
BC19 BC20 DA13 DA16 DA17
DD07 DH02 DH03 DH08